

道連ニュース

2020年9月号 No.167

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL : <http://www.doren.coop>

第1回理事会報告

8月6日(木)第1回理事会が開催されました。議長に北大生協の小助川理事が選出され、冒頭、麻田会長の挨拶のあと、議事に入りました。平専務理事により議決事項①役員報酬決定の件②令和2年7月豪雨災害支援募金対応—日本生協連に30万円送金③法律顧問契約書の更新④テレビ会議方式を利用した理事会出席の取り扱いの件⑤北海道生協運動史増補改訂版発刊の件⑥新北海道スタイル推進協議会の参加⑦次回理事会の開催⑧日本生協連北海道東北地連運営委員推薦の件について提案され、了承されました。北海道生協運動史増補改訂版発刊の件は、道連30周年事業として1987年に発刊された「北海道生協運動史」以降、歴史の継承として戦後の生協運動を牽引し解散した産炭地生協及び道連の系譜、現在の道内生協グループの社会的ポジション

獲得の経過と道連の役割変化について記録を残し、生協激動の時代を経験していない役職員の方々にもご理解いただける内容として作成するものです。

審議事項①「協同組合ネット北海道」総会以降の取り組みについて—テーマ別の担当分担事務局を決め、具体化が協議されること②こども食堂北海道ネットワークの取り組みについて—社会的評価③LPガス問題の今後の展開について④灯油の安定供給・福祉施策要求への取り組みについても、確認されました。報告事項は①一般活動経過報告②道連総会報告③第1四半期決算報告④ヒバクシャ国際署名の取り組み⑤ホクネット総会報告⑥北海道奨学金ネットワーク幹事団体会議報告⑦その他北海道・友好団体協賛等、日生協北海道東北地連報告が確認されました。

コープさっぽろ

75年目の夏



戦後75年となるこの夏は、新型コロナウイルスが私たちの生活に大きな影響を与えています。「戦時下」と「コロナ禍」、戦争と感染症という全く違うものなのに、何故だか不思議な共通点があるように感じます。生活に制限があることでしょうか。ステイホーム、不要不急の外出自粛、人との接触を出来るだけ避ける。このような中で「私たちが今、出来る活動を」と各地区で「戦跡調べ」や「平和パネル展」に取り組みました。

戦跡調べは、終戦から75年が経った現在も、道内には多くの戦争の遺跡「戦跡」があることを改めて知る機会となりました。日本の最北端に位置する稚内赤レンガ通信所、浦幌町と豊頃町にまたがるトッキ浜にあるトーチカ。小樽手宮公園に残る高射砲台の台座。網走にある防空壕(タコツポ)跡、オホーツク海を見渡せる高台にある旧日本軍トーチカ跡は内部を見学することが出来ました。北広島通信所は、ソ連・米国の通信を傍受し、暗号解読・翻訳をしていたとのこと。室蘭には捕虜収容所や強制労働者の収容所跡地、幻の室蘭飛行場も存在したようです。悲惨な戦争が実際にこの地であったこと、命と平和の大切さを後世



に伝えていく責任があることを強く感じました。そして二度と同じ過ちを繰り返さないためにも、戦争の遺跡を保存し、語り継いでいく必要性を感じた戦跡調べとなりました。

「平和パネル展」はコープさっぽろ17店舗で実施しました。今回は密にならない、なるべく接触しないような工夫をこらした展示。そのような状況ではありましたが、多くの組合員さんに足を止めて見ていただけました。大やけどをしながらも赤ちゃんを胸に抱き授乳する母、焼き場に立つ少年、炭化し、もはや男女の見分けもつかない死体の山など、どれも目を覆いたくなる写真ばかりですが、これが現実にあったこと。戦争を体験した方からは、「そうだ、こんなことがあったね。思い出しました。」との声も聞かれました。小樽南店の会場では、ヒロシマ・ナガサキの被爆者からの体験談を伺うライブ上映もされました。

75年前の夏、たった1発の原子爆弾で多くの方が亡くなり、75年経った今も苦しみ続けている人がいることを忘れてはいけません。パネル展を通して一番そう感じたのは、私たちだったのかもしれませんが。

コロナの影響でイベントや企画は中止・縮小され、毎年続けてきたヒロシマ・ナガサキへの「平和スタディツアー」も中止となりました。しかし、本来であれば現地に行かなければ参加出来なかったイベントがオンラインでライブ配信され、より広がりも生まれました。

戦後75年目の夏はこれまでで一番「戦争・平和」について知り、考えた夏となりました。

コープさっぽろ組合員活動委員会では「ブログ」を始めました。今回の戦跡調べや日々の活動について書いています。ぜひ、ご覧ください。

オレンジエプロンの「くみかつ日記」

<https://ameblo.jp/09231-20/>





こども食堂北海道ネットワーク



コロナ禍の下、支援の輪と連携強化へ！

2017年6月に創設された「こども食堂北海道ネットワーク」は新型コロナウイルスに翻弄されながらも



多くの運営者、支援事業者、団体に支えられ「繋がり」「絆」を強化継続し最大の被害者でもある子ども達の“笑顔”を育んできています。「お弁当」「おやつ」の配布！ 境内での水遊び！ 河原での外遊び！ 七夕！ 等々、今出来る事を工夫し最大限の「感染防止策」に腐心し、相互の考え方を理解しつつ連携の輪を大きく成長させて参りました。62団体の輪は札幌市内の70%！ 道内全体の40%が結集するネットワークとなっています。



財政的支援！ 物品支援！ の飛躍的増勢！ 2020年！

顕著なコロナ影響が出始めた2020年2月以降、飛躍的に高まったのが「資金支援」「物品支援」事業者の増大です。行政現場からも地域状況を考慮した“助成”新設や様々な“連携”が取り込まれ！ “こども食堂北海道ネットワーク”への沢山の支援案件の紹介があり多くの取り組みに繋げることができました。チョコやスナック菓子、珍味等の大量提供！ LL牛乳利用での産地支援！ ホットケーキミックスのお届け！ 手指消毒ハンドミストの提供！ 中でも特徴的だった

のは札幌市内で不動産業を営むオーナーズk kさんからの「市内の全ての子ども食堂に！」と高額の寄付を頂いた事です。その後もライオンズクラブさんやロータリークラブさんからの社会貢献事業として問い合わせが続いており“協同組合”が地道に続けてきた「社会的責任」「コミュニティへの関与」という価値や原則がコロナ禍の下、益々その真価が発揮しつつあるという現実です。道連に結集し協働する全ての協同組合にあらためて感謝申し上げたいと考えております。

こども食堂運営者・支援事業者・個人・行政と虹の架け橋に！

コロナ影響で全ての活動が「感染防止」第一への行動変容が求められる現在、道連に結集する各協同組合も必死に雇用を守り、組合員の暮らしを守る様々な課題にチャレンジしておられる事と存じますが協同組合へのかかってない期待の高まりにスクラムを組んで“虹の架け橋”を架けていきたいと考えています！ コロナに負けるな！

